

# 令和6年度静岡県高校バスケットボール新人大会 大会展望

文： 中島 洋己

( (一社) 静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭)

令和6年度第38回東海高校新人大会バスケットボール競技静岡県予選が令和7年1月25日に三島南高校他で開幕する。初日に1,2回戦、2日目にブロック決勝と決勝リーグ初戦および5位決定トーナメント、週をまたいで3日目に舞台を御殿場市体育館に移して決勝リーグ第2戦と順位決定戦、最終日に決勝リーグ最終戦を行い、上位3チームが2月15,16日に三重県・四日市市総合体育館で開催される東海高校新人大会への出場権を獲得する。今年の戦力図を占う最初の大会を制するのはどのチームなのか、また東海新人に県代表としてコートに立つのはどのチームなのか、今から興味が尽きない。

ここで今回の県新人大会に関するトピックを3点紹介したい。

1点目は今大会から「7位決定戦」も行うことである。平成29年度の県新人から5位決定トーナメントが導入され5位決定戦は行われているが、7位決定戦は行わず2チームを7位とし、次大会の第7・第8シードは抽選によるものとしてきた。県新人の7・8位は翌年の県総体シード順に大きく影響し、完全トーナメント制で行われる県総体では順当に勝ち上がると第1シードと対戦するのが第7シードの場合は決勝であるのに対し、第8シードは準々決勝で早々に当たってしまう。もちろんシード順は該当校ではなく地区に割り当てられ、さらに優勝するためには当然いつかは最強の相手と対戦してなければならないが、県総体も視野に入れながら緊迫した順位決定戦という貴重な経験を積めることは、プレーヤーズファーストに基づいた運営側の「英断」と評価したい。

2点目は県大会最終2日間は9年ぶりに東部地区で開催されることである。県新人はこの9年間、草薙このはなアリーナを中心に中部地区で開催されてきた。県総体はエコパ、ウインター県予選は静岡県武道館で開催してきたので、三大大会としては平成27年度県新人を沼津市民体育館で開催して以来の東部で迎える最終週、舞台はU18県大会初使用の御殿場市体育館となる。東部の会場と言えば沼津市民体育館や富士宮市民体育館を思い出すが、御殿場市体育館はU12の県選手権やU15の県新人・県会長杯、そしてBリーグ・Wリーグの会場で頻繁に使用されており、皆様にも馴染みのある体育館、驚くことに高校の県大会では初使用となる。そして何よりも東部地区はU18の地区予選最終日を御殿場市体育館で開催することが多く、つい2週間前の東部新人最終日も使用され、東部地区の高校生にとっては「聖地」まさに「ホームタウンゲーム」と言える。

3点目は直接県新人とは関係ないが、新年の挨拶や1月6日の県協会HP記事でも触れた「県協会公式アプリ(仮称・静岡県バスケ)」の試行をこの大会を使って行う点である。すでに皆様はHP経由でQRコードを読み取りアプリをインストールしていただいていると思うが、(株)ookami様の協力を得ながら県新人のニュースやスコアを情報発信していくこととなった。県新人1,2日目はHP同様全試合終了後結果を配信、最終2日間は各試合結果確定後瞬時に結果をアプリで通知する予定である。会場主任や高体連広報委員の先生方には今まで以上にご苦勞をおかけすると思うが、機能の確認、情報発信の手順、そして導入に向けてのメリット・デメリットの

把握を行うためにも協力して頂くとともに多くの皆様にアプリ登録をしてもらい、使い勝手などのご意見をもらいたいと思っている。なお現在このアプリ導入はあくまで検討中、正式運用の可否を決めるための試行運用を今大会で行い、県協会理事会で十分吟味し結果を年度内にお伝えする旨もご理解いただきたい。

この大会から年末の**ウインターカップ 2023**に出場して全国ベスト 16 となった浜松開誠館、そして全国 3 勝を飾ってベスト 8 になった藤枝明誠が満を持して登場する。全国の強豪と繰り広げた熱戦で培った経験をこの大会で思う存分に披露してくれることを期待したい。この時期毎年のことだが**季節性インフルエンザ**の流行がすさまじく、静岡県でも「警報レベル」を大きく超える感染者数を記録し続け、一部では学級閉鎖や地区予選の出場辞退もあったと聞く。空気に色が付いているわけでもなく対応にも限界はあるが、各自十分な感染症対策を講じて棄権チームを出すことなくこの大会が無事終了ことを願う。

2月2日には恒例の**(一社) 静岡県バスケットボール協会 U18 優秀選手表彰式**が開催される。昨年4年ぶりに開催され、県新人大会最終日の風物詩が帰ってきたこともあり感無量で集合写真を撮ったことを思い出す。ウインター3試合で3P9本を決めた井口姫愛、同じく3試合で合計93得点を記録し世代屈指のエースとして日本代表への階段を昇り続ける後藤音羽、長いウイングスパンとストライドを使っての華麗なプレーで観客を魅了した河谷真矢という3年連続受賞者を筆頭に、ウインターで歴代2位の1試合34リバウンドを記録したロードプリンス、4試合で19アシストを決めた野田凌吾を含めた今年度の高校バスケを彩った24名のスーパースターが集う最後の機会、多大な貢献に心から拍手を送るとともに次なるステージでの活躍を祈りたい。

この展望を執筆するにあたって山口裕史県協会広報副委員長・三宅凌広報委員を始め、各チーム顧問にもお願いをして出来る限りの取材に応じていただいた。それでも十分な展望は書けていないと思うが、この場を借りて協力していただいた皆様に心からお礼申し上げたい。

## 【男子】

今大会はウインター県予選でも他チームの追従を許さず、本戦でも元日本代表・納谷幸二監督率いる岡山商大附、毎年純国産選手のみで独特なバスケスタイルを披露する新田(愛媛)、13年連続でウインターに出場しインハイ3位の経験もある正智深谷(埼玉)を倒し、3年連続東京体育館のメインコートで雄姿を見せてくれた藤枝明誠が頭1つも2つも抜けているが、昨年県新人・県総体でも準優勝し今回も東部新人連覇を飾った沼津中央、中部新人4連覇を成し遂げた静岡商業、西部新人決勝で浜松開誠館との壮絶な戦いを制した浜松学院の各地区覇者、そしてウインター県予選決勝で藤枝明誠相手に一步も引けをとらない素晴らしい戦いを見せてくれた浜松開誠館などが藤枝明誠の独走を許すまいと必死に追いかける展開が予想される。藤枝明誠は実戦経験を積んだ下級生が多いといえども全国有数の留学生・ロードプリンスが抜けたことや新チームを始動してまだ4週間程度という事実は変え難く、新たな布陣で試行錯誤を繰り返す中その合間を縫って実力派チームが包囲網となり藤枝明誠相手にどのような試合をするのかが楽しみである。

左上のブロックは大会3連覇中・ウインター全国ベスト8・県内高校大会8連覇そして57連勝中の藤枝明誠が大本命中の大本命であるが、その王者への挑戦権を賭けて地区3位の城南静岡

と三島北が争う展開になる。

藤枝明誠はウインター準々決勝で東山(京都)に惜敗したものの、大会ベストゲームの呼び声高い手に汗握る名勝負を演じた。最後の最後に勝利を逃してしまったが、日清食品トッリーグでは12点差で敗れた相手、そしてインハイ王者でもある東山を土俵際徳俵まで追い詰めた試合を見て勇気と感動をもらった人も多いはずだ。私も当日はバスケットLIVEでの動画観戦となったが感涙にむせんでしばらく何もできなかった記憶がある。敗れたことは非常に残念ではあるが、この試合はウインター史上に後々にも語り継がれるだろう珠玉の名勝負であることは間違いのない。また感傷的になりがちな試合後の「ラストミーティング」でも指揮官は選手の前で涙を見せることなく前向きな言葉をかけ続けて上級生をねぎらい、下級生をさらに鼓舞する姿を見て藤枝明誠の強さの秘訣が垣間見られたように感じた。ロードプリンス・野田という絶対的エースと司令塔が抜けて戦力的に苦しくないはずはないが、先輩からの薫陶を胸に、果しえなかった全国制覇という大きな目標に向けて今大会で新たなスタートを切る。

中心となるのは、入学早々からレギュラーを獲得し全国の強豪と戦い続ける中で類まれな潜在能力を発揮し続けて新生・藤枝明誠を牽引する191cm野津洸創。…

## 男子展望 以下 鋭意執筆中

### 【女子】

今大会も現在県内大会24連覇、161連勝中、まさに9年近く県内無敵を誇る浜松開誠館の総合力が俄然群を抜いている。そのような状況の中でも各地区予選王者と上位チームが何とか女王に一泡吹かそうと必死に迫りすぎる展開が予想される。そして2番手以降はまさに「群雄割拠」、これは男子にも言えることだが、東海新人出場権争いも例年にも増して熾烈な争いとなるだろう。

左上のブロックは今年も浜松開誠館の独壇場であろう。他チームはまず浜松開誠館と戦うところまで勝ち上がり、試合の中で絶対女王を慌てさせ、何か次につながるものを掴み取りたいと思って戦うことになる。その中で、静岡東と沼津中央の地区3位同士のチームがブロック決勝での浜松開誠館挑戦権を賭けてぶつかり合う展開になると予想する。

大会8連覇を狙う浜松開誠館はウインターで近江兄弟社(滋賀)、そして本県が過去に何度か苦杯を喫した千葉英和にも快勝、戦前から大きな山場と予想された3回戦、インハイ3位・精華女子(福岡)戦では相手留学生の爆発的攻撃力に苦しみ終始追いかける展開となり終盤の反撃も一歩及ばず惜敗、しかしながらインハイに続き堂々の全国ベスト16となったことは私たちにとっても誇りである。主力としてチームを牽引し続けたダブルエースの井口・後藤やチームを下支えた八重柏憂奈・杉山実子などは引退したが、実戦経験を多く積んだ下級生が先輩たちの魂を受け継ぎ、チームをリビルドして今大会に臨む。

中心となるのはウインターの檜舞台3試合で3P5本を含む33得点を挙げ、次世代のエースとしての貫禄を十分見せた前川桃花。…

## 女子展望 以下 鋭意執筆中